

編集後記

公開シンポジウム開催の話が初めて持ち上がったのは、第一三回研究会の運営会議（二〇〇四年一月）においてだったと記憶しています。その後、二回の研究会（第一四回・四月、一五回・七月）を開催しながら九月に向けて準備を進めました。会のテーマはどのようなのか、基調講演はどなたに依頼するのか、会の形式はどうするのか、広報はどうするのか等々、いろいろな方からお知恵をお借りしました。共催者の九州大学P&Pプログラム（「九州」という思想）からもご助力をいただきました。

事務局の一人として、このシンポジウムに参加していただいた皆様にとっても感謝しています。特に、講演者の一人、小沢節子氏には、体調が優れない中、無理をおして東京よりご参加をいただきました。後半の自由討論のときには退席なさらなければならなかったのですが、講演は実に刺激的で、後半の討論に向けて良い問いを投げかけていただきました。会の結びに、司会の川口隆行氏が述べている通り、今回のシンポジウムは、二〇〇一年一二月に設立した本会のこれまでの活動を振り返り、今後を展望するよい機会になったと思います。シンポジウムに関して、ご意見、ご感想等お寄せいただければ幸いです。（N）

原爆文学研究 増刊号

二〇〇六年三月一日発行

編集 原爆文学研究会

八〇一八五〇

福岡市中央区六本松四―二―一

九州大学大学院比較社会文化研究院

石川巧研究室気付

発行 侑花書院

八〇一〇〇三

福岡市中央区白金二―九―六

TEL 〇五三五六〇二七

FAX 〇五三五四四二一

定価 一一〇〇円(本体 一一四三元)

◇書店にない場合は「地方小出版流通センター扱い」とご指定の上、書店にご注文下さい。

◇継続購読は、花書院「原爆文学研究係」にお申し込み下さい。送料は無料となります。